

# えいじゆめい

「西和賀の人と自然と環境を守り育てる豊かな里づくり」

西和賀エコミュニシウム事業だより

平成20年3月25日発行

第7号

## 地元学事業（小繋沢区・泉沢区）

西和賀地方には美しい自然や景観に加え、先人たちの知恵と努力の積み重ねで優れた技術や伝統文化を育み伝えてきました。これらは町や地域の大きな財産で、保存や伝承をしていくことが重要な課題となつていますが、生活様式や自然環境の変化などにより失われているものも多いため、現状です。

西和賀エコミュニシウム事業では、これらを地域の資源（宝）と捉え、地域住民自身が保存・伝承すべき資源や財産を認識し、保存・伝承の手法を築くとともに、地域資源を活かした創意と工夫のある地域づくりを進めるための方法として地元学事業を行っています。

昨年度に引き続き、泉沢区がマップ作りに取り組みました。

また小繋沢区では地域を回つてお宝さがしを行い、その地域のお宝の改善・活用について検討し、さらに、実践テーマの絞り込みワークショップを行い地域づくり計画策定の準備ができました。



## 小繋沢区の取組み

NPO法人いわて地域づくり支援センター代表理事の広田岩手大学農学部教授の指導を得ながら、同学生や町職員なども一緒に参加して、実施されました。



事業は7月22日（日）からスタートし、お宝さがし（いわゆる集落点検）マップづくり（集落点検の結果を一枚の図面にする）お宝改善・活用ワークショップ開催（全体で検討会を1回・夢語り会を2回）実践テーマづくり（地域で取組むべき実践テーマを絞り込む）等、1年間で7回地元学を開催し、ワークショップ等を実施しながら、地域づくり計画にむけて取り組みました。

こうした住民と行政、NPが一緒に地元学を進めることで、外から見た地域の良さや特徴も



出され、自分達の資源の大事さに気付くことができ、この活動を通して、地域住民自身が保存・伝承すべき資源や財産を認識し、保存伝承の手法を築くことができるものと期待しています。

## 西和賀エコミュニシウム 推進事業連絡会

この連絡会は西和賀の自然や景観・文化や史跡、地域に伝わる伝統技術などを活かしながら活動している団体が自由に情報交換をしながら相互の連携や行政が行う活動への意見提言を行ない、西和賀エコミュニシウム活動を活性化させていくことを目的とする連絡会議です。

連絡会議では、それぞれの団体の事業推進のために、行政への要望やお互いが活動している中でかかえている課題等についての情報交換、または事業の掘起しの議論の場とすることとし、特に今年度は、実際に活動団体の現場を訪ねて、お互いの活動を見て、知ることを目標として取組みました。

次に視察見学した団体等を紹介します。



西和賀文化遺産伝承協会（が保存活動している川舟にある菅葺き民家「川舟の家」で連絡会議を開催しました。若畑の工房「ちやい夢の会」）では、販売商品で人気の「山菜さんまい」の炊き込みご飯や「味もち」などを昼食に準備していただきました。新町の夢追い人かじか組合では岩魚の養殖場（ ）を見学しました。ここで養殖された岩魚の甘露煮は町内外から好評を得ており、組合の活動資金源であるとのことでした。左草婦人グループさそつ地饅（ワーク工房））では、県産小麦粉を使った生地に地元ゼンマイなどのお惣菜入りの饅頭を作っています。



連絡会議は活動団体がそれぞれ何をしたいのか、あるいは行政に何を望みたいのか、話し合いを通して明らかにすることで、団体間同士の連携ができ、行政としての支援の必要性が明確化されるといふ大きな成果が期待できるものと思われま

## 西和賀エコミュニシウム 推進事業補助金

この事業は、地域にあるものを利用して、それが経済的な成果につながるような活動や埋れている豊富な地域資源に光をあて、伝承していくような活動に対して、20万円を限度として活動費に支援するものです。

推進事業費補助金を活用して、今年度取り組まれた事業を紹介いたします。

### \*北のカタクリの里作り事業

目沢牧野農業協同組合は「沢内銀河高原」との協働による事業として、大荒沢のカタクリをはじめとする豊かな山野草等の踏み付けを防止し、群生地保護と再生を目的に事業に取り組みました。

写真のような杉皮チップを観察路に敷き、来訪者がより歩きやすく、景観を楽しめるコース整備をしたことでリピーターも増え、「カタクリ再生大作戦」のようなイベントを通じて、今後は人的交流も期待できそうです。



### \*カタクリの里づくりガイド養成講座

カタクリの里づくり協議会では、カタクリの里づくり事業の一環として、来年度から西和賀カタクリ祭を開催するにあたり、カタクリの里を案内できるガイドを養成することを目的として実施されました。(講座の参加者は29名)

多くの人々が西和賀を訪れても、受入れ態勢がほとんど整っていないのが現状で唯一、安ヶ沢地区でこれまでに、10年間「安ヶ沢カタクリ祭り」を行ってきただけとなっています。今回のガイド養成講座には、予定以上



の参加者となり、関心の高さがうかがわれました。ガイドの養成を行ったことにより、西和賀への来訪者にカタクリを通じて西和賀の自然と文化の素晴らしさを伝えることが出来るものと期待されます。

またガイドが案内することにより、カタクリをはじめとする自然の見方、マナーを伝えることが出来ます。さらに受け入れ地の荒廃を抑制できることも期待され、ガイドが育つことにより、日本一のカタクリの里を目指すにふさわしい、西和賀の地域づくりに貢献できるものと思われま



ガイド小道具作成(紙芝居)

### エコミュージアムブレック

#### 真昼ブナ指標林を歩こう!

10月13日(土)に、盛岡・北上・奥州市等町内外の方々参加者21名でゆつたりとブナ林を一日散策する楽しい自然観察会を行いました。

当日は沢内パーデんに集合しバスで真昼岳登山口まで移動して、カタクリの会代表の瀬川強・陽子ご夫妻の魅力あるガイドで二班に分かれ、ブナの森が広がる、真昼ブナ指標林を散策しました。



ブナ林の中で、食べたお昼ごはんも美味しく、また大きなブナの木に聴診器をあてて、聞こえてきたドクン、ドクン...というブナの声、呼吸ともいえる不思議な初めての音との感動的な出会い、色とりどりの落ち葉や木の美しさが多く見られる季節で、多くの生き物たちの暮らしも垣間見ることができました。

### 雪国の納豆作りと郷土食満喫ツアー

2月24日(日)に、奥州市など町内外24名の参加者は沢内庁舎前に集合し、バスで両沢公民館に移動して、長瀬野生活研究グループの方々から、以前は作っていたという雪納豆について、活動当時の様子をビデオなどで説明を聞いた後、納豆作りには欠かせなかった「藁つと」作り( )体験をしました。また、手軽にできる箱納豆作り( )も見学でき、家に帰ったら早速、納豆を作ろうと販売コーナーでは黒豆を買い求める参加者も多くいました。また、午後には大変な盛り上がりを見せたホッピキ大会( )は思いに残ったことでした。



「昼食には納豆汁や山菜の煮しめ、」エゴ」や「親子みずたき」などの郷土料理をたっぷり味わうことができました。参加者は大満足の一日となりました。

### 西和賀の自然と文化を紹介する小冊子を発行

西和賀エコミュージアム事業では、西和賀の自然と文化シリーズとして毎年小冊子を発行しています。今年度は第四冊目の発行となり、「西和賀のキノコ」と題した小冊子を発行しました。日本には推定で五千種ものキノコがあるといわれています。西和賀にもたくさんの種類のキノコがありますが、この小冊子では、その中の約五十種のキノコについてのお話や解説をイラストや写真などの掲載により、よりわかりやすい内容となっています。

- 第一章 生物としてのキノコについて
- 第二章 西和賀の山や森で出会ったさまざまなキノコの写真を紹介
- 第三章 キノコ採り名人からの聞き取りをもとにした、西和賀のキノコ文化にまつわるおもしろいお話の紹介。

各公民館、小中学校等に配布します。是非みなさんでご利用ください。



\*連絡先  
西和賀町役場 湯田庁舎  
企画課 八二二三八四